

ITの力で地域に貢献する

私はIT企業を経営する者として、日々「職業奉仕」という言葉の意味を自分に問いかけています。ロータリーの理念である「奉仕」は、単にボランティア活動を指すものではなく、自らの職業を通じて社会に貢献することを示していると感じています。「職業をもって社会に奉仕する」、その実践こそ、経営者としての私の使命であり、ロータリアンとしての責任だと感じています。

私の会社では、約30年前から現在に至るまで「学校集金システム」の開発と提供に取り組んできました。きっかけは、ある学校の先生からの一言でした。「子どもたちに向き合う時間よりも、集金や事務作業に追われている」との事でした。教育現場では、給食費や教材費、遠足代など、現金を扱う業務が多く、集金・確認・振込などの作業に大きな負担がかかっていました。金銭の扱いはミスが許されず、精神的にも大きなプレッシャーになると伺いました。また、子供達が学校に現金を持参する事で紛失等の現金事故もありました。この課題を何とか解決できないかと考え、私たちは自社の技術力を活かし、金融機関や教育委員会と連携して、現場の声に沿ったシステムを開発しました。その結果、学校側は生徒毎の入金状況を一目で確認できるようになりました。また導入後、現金を扱うリスクがなくなり、事務負担が大幅に軽減されたと好評をいただきました。ある先生から「今までの作業量は何だったのか」と感謝の言葉をいただいた時、私はこの仕事を通じて「職業奉仕」を実践できたと感じました。あわせて、金融機関側からも学校への集金訪問等もなくなったと好評をいただいた過去があります。

ロータリーの「四つのテスト」、「真実か」、「みんなに公平か」、「好意と友情を深めるか」、「みんなのためになるか」に照らすと、この取り組みはそのすべてに合致していると信じています。社会に真に必要なとされる仕組みをつくり、公平で透明性の高いシステムを提供すること。そこにはお金では測れない価値があります。私たちの職業が持つ技術と知識を、人々の暮らしを支えるために使うことこそ、ロータリーが掲げる「職業奉仕」の精神にほかなりません。

このシステムを通じて、私は「奉仕」とは特別な行為ではなく、日々の仕事の中にこそ存在するものだと改めて気づかされました。利益を追うだけでなく、社会にとっての「善」を考え、技術を人のために生かす姿勢を持ち続けること。それが、ロータリアンとして、また経営者としての私の信条です。

これからも地域社会が抱える課題に耳を傾け、ITの力で少しでも人々の暮らしを豊かにできるよう努めてまいります。そして、私自身の職業を通じて「奉仕」を実践し、ロータリーの理念を次へとつなげていきたいと考えています。